

# 聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

## 第3章 ヨシュアからサウル王までの時代③



ヤベツ、エフタ、マノア

### ヤベツ

ヤベツについては、聖書はほとんど何も記録を残していません。歴代誌第一4章9節を見ると、彼は「兄弟たちよりも重んじられた」と記されていますが、彼についてさらに詳しく見るには、記録が唯一残っている彼の祈りに頼らなければなりません。

ヤベツはイスラエルの神に呼ばわって言った。「私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私とともにあり、わざわざから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいますように。」そこで神は彼の願ったことをかなえられた。(I 歴代誌 4:10)

人は誰であれ、どのように祈るかによって天の関心と応答を得ることになります。ヤベツの祈りは単純なものでしたが、神こそがあらゆる祝福ないし個人的な成功の源であるということに認識しているという意味で、直接的な祈りとなっています。ヤベツの四つの真摯な願いに明白な、敬虔な装いと精神を見るとき、私たちは心を打たれるのです。



- 1. 神の祝福を求める祈り。** 私たちは神の祝福を求めるべきであり、それを金よりも優れたものとして大切にしなければなりません(創 32:26、箴言 10:22 を参照)。
  - ・ その人は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください」。ヤコブは答えた、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」。(創世記 32:26)
  - ・ 主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみをも加えない。(箴言 10:22)
- 2. 地境の拡大を求める祈り。** 誰しも、信仰上の子孫、弟子たち、影響力を求めて願うべきです(I テサロニケ 2:19 を参照)。今以上に優れた奉仕の機会があるならば、この祈りに対する潜在的な答えとして見るようにすべきです。
- 3. 必要な能力が与えられるようにという祈り。** 私たちはみな、なすべきことに対する神の導きと、それを実行していくうえでの神の御手があることを求め、必要な能力が与えられるよう、切に求めていくべきです(創 24:12-24、使徒 4:29-30 を参照)。
  - ・ 主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」。(使徒行伝 4:29-30)

4. **悪とそこからもたらされる傷からの守りを求める祈り。**人類は悪とそこからもたらされる残念な結果からの解放を求めて神に叫びを上げるべきです(マタイ 6:13、1 テサロニケ 4:3-4 を参照)。

- ・ わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。(マタイ 6:13)

エフタ

エフタの祈りは、祈る人 全てにとって警告として響くべきものです。 神に誓願を立てるということは、祈りのうちでも珍しいことではありません。旧新約聖書の両方において、誓願とは、神に対してなされる約束、誓いであり、人に対してのものは一つもありません。誓願とは常に、信仰上の自発的な表現であり、それによって神を意図的に動かそうとするものではありません。エフタの誓願は、自分でも祈っているように、まれに見る信仰と献身を表現したものでした。

エフタは主に次のような誓願を立てました。「もしあなたが確かにアモン人を私の手に与えてくださるなら、私がアモン人のところから無事に帰って来たとき、私の家の戸口から私を迎えに出て来る、その者を主のものといいたします。私はその者を全焼のいけにえとしてささげます。」(士師 11:30-31)

神への約束は、些細な結果しかもたらさないというものではないため、軽々しく、熟慮なくすべきことではありません。エフタの誓願は、最善の意図をもって、また、神をたたえる目的でなされたにもかかわらず、そこに伴う様々な可能性について熟慮したうえでなされたものではありませんでした。彼は、戸口から最初に出てきたのが自分の娘だったのを見て衝撃を受けました。

ちなみに、エフタがこの誓願をどのように実行に移したかについては多くの議論があります。当時の暗黒の時代状況から、エフタが本当に娘をいけにえとして捧げたと信じる人もいます。しかしながら、レオン・ウッドは、より説得力のある議論を提供してくれています。すなわち、エフタは「彼女を捧げはしたが、それは彼女を幕屋に捧げ、生涯、独身を守りながら主に仕えるようにさせた」という解釈です。

マノア

クリスチャンの親の当然の関心事は、子どもたちの信仰的な成熟と心身の健やかな成長です。マノアの祈りは、これから親になりたいと願う人々にとって、まさに模倣するに価するものです。

そこで、マノアは主に願って言った。「ああ、主よ。どうぞ、あなたが遣わされたあの神の人をまた、私たちのところに来させてください。私たちが、生まれて来る子に、何をすればよいか、教えてください。」… マノアは言った。「今、あなたのおことばは実現するでしょう。その子のための定めとならわしはどのようにすべきでしょうか。」(士師記 13:8,12)



マノアの祈りは、はっきりとした形で答えられました(13:13-14)。神に喜んでいただきたい、わが子に神をほめたたえる者に育ってもらいたいと真摯に願う親ならば、まさにマノアが祈ったままに祈るよう励ましたいものです。「私たちが、生まれて来る子に、何をすればよいか、教えてください」(13:8)。「その子のための定めとならわしはどのようにすべきでしょうか」(13:12)。

## ？ 質問

1. ヤベツはどんなことをしっかり認識して祈っていましたか？  
あなたはヤベツと同じことを認識して祈っていると思いますか？
2. ヤベツの祈りには4つの真摯な願いがあります。  
その中で、あなたが最も祈るべきことは何だと思いますか？
3. エフタは祈りの中で神に誓願をしました。  
このエフタの祈り～、あなたはどのようなことを学ぶことができますか？
4. マノアの祈りは、どのような点で親として模範となると思いますか？  
あなたは、自分に続く世代のためにどのように祈りたいと思いますか？
5. 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？  
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。あなたこそ祝福と成功の源であることを正しく認識し、信じ、祈り求め続けることができますように。自分のためだけでなく、次に続く世代のために祈る者でありますように。